

I 研究の概要

1 研究主題

小中9年間を見通した思考力・表現力の育成
—かく活動を取り入れた授業作りを通して—

2 研究主題設定の理由

① 学校教育法第30条第2項を受け、現行学習指導要領では、

「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」

と示されている。前学習指導要領の同部分の記述では

「自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」

とあり、比較すると育成すべき3つの観点が明確に示されていることが分かる。

さらに、次期学習指導要領改定に係る教育課程部会の論点整理では、

「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」
「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」
「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」

が育成すべき資質・能力の3つの柱として整理されている。児童がこの3つの資質・能力をバランスよく身につけていくことが求められている。

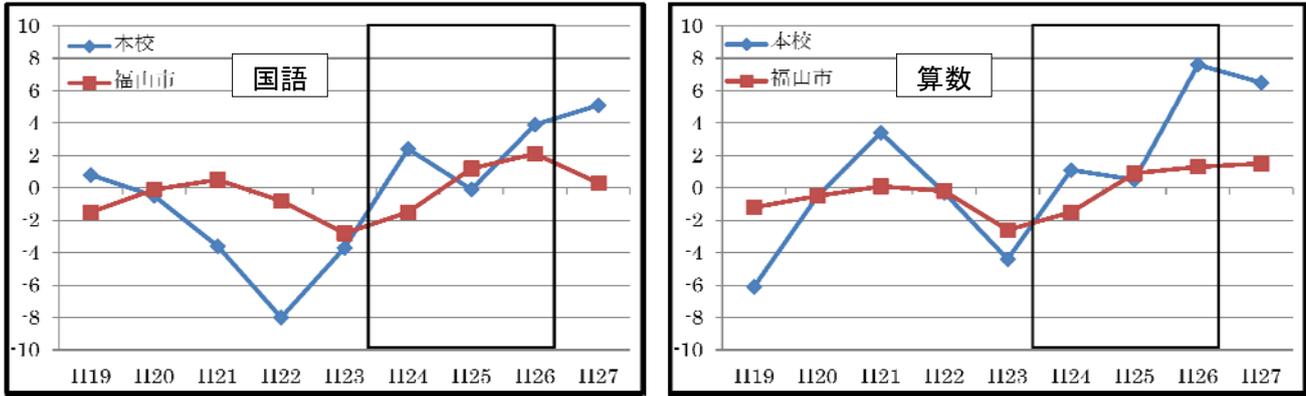
② 本校は、「夢と誇りを持ち、時代を切り拓く子どもの育成」を学校教育の目標に掲げている。そしてこの目標を具現化するための【めざす子ども像】として【かしこく・やさしく・たくましく】を設定している。

めざす子ども像	キーワード
かしこく…「学ぶ喜びを知っている」	学ぶ意欲と問いを持つ・解決の方法を自ら考える・考えを伝え、聴く
やさしく…「自分も人も大切に作る」	正しい言葉・素直に感動する心・ボランティア活動
たくましく…「自分のよさを知っている」	美しい動作・体を動かすことが好き・粘り強く最後までやりきる

特に学力の視点からは【かしこく】の項目にあるように高い意欲を持ち、自ら考え、それを伝え合えることをめざし、全教職員で教育活動に取り組んでいる。

③ これまで本校は平成24年度から26年度まで、学力向上総合対策事業の研究指定校区として「基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着」を研究テーマに掲げて実践を行った。この指定事業での取り組みを通し、児童の学力には一定の向上（グラフ1）が見られた。しかし、国語科では理由を挙げた記述、算数科では自分の考えを筋道立てて説明することを記述すること等、思考・表現に課題があった。

(□囲みは学力向上総合対策事業指定期間)



グラフ1 「基礎・基本定着状況調査における県平均との差の推移」

①②③を踏まえ、平成27年度からは定着した知識・技能を活用して思考力・表現力を向上させることを目指し、校区での研究テーマを「**小中9年間を見通した思考力・表現力の育成**」とし、副題は引き続き「**かく活動を取り入れた授業作りを通して**」と設定した。(なお、算数科等における数直線や図等、“書く”と漢字で書くことが適当でない場合もあるため、本校では『かく』とひらがな表記を用いる。)

④ 今年度より福山市では『福山100NEN教育』として研究体制が新たに構築され、各学校ごとに2つの教科領域について中心的に研究を行うこととなった。本校は「算数科」「家庭科」を研究教科とし、研究授業を行っていく。また、昨年度から2年間、福山市の『ふるさと学習実践研究校』の指定を受け、実践事例の蓄積を行い、他校への波及に努めている。さらに来年度(平成29年度)には『第68回広島県小学校視聴覚教育研究大会』の会場校として、情報教育の実践提案が予定されており、情報教育の研究も併せて行っていく。(情報教育ではICT機器の整備が急務であり、PTAのご協力もあって現在5・6年生に60インチ電子黒板が1台ずつ、1～4年生に50インチデジタルテレビが1台ずつ整備された。さらに学年に1台ずつ教材提示装置も整備済みだが、これは全学級整備をめざしていく。そして今後はタブレットPCの導入も検討する。) よって、本校の今年度の研究体制は、全教科領域に関わる「ふるさと学習」「情報教育」と、「算数科」「家庭科」の4部会である。この4部会で「**小中9年間を見通した思考力・表現力の育成**」めざし、研究を推進していく。

3 研究内容

(1) 研究仮説

授業の中で、かいて考えをまとめる場を設定し、協働的な学びが成立する指導法の工夫を行い、ICTの効果的な活用をすれば、論理的な思考力・豊かな表現力が育つであろう。

(2) 研究の視点

- ①かく活動を位置づける
- ②協働的な学習を位置づける
- ③ICT活用

(3) 研究の方法

①かく活動を位置づける

本中学校区の課題である自分の考えを「かく」力を付けるために、2年間校区で取り組んできた。特に算数で自立解決するために、図や表に表しながら考えを深め、思考の過程を言葉で書いて表現すること、日々の日記や作文の指導に力を入れて実践してきた。ほとんどの分の考えをかくことはできるようになってきたが、筋道を立てて論理的に表現することは十分とは言えない。今年度も、条件を与えて筋道を立てて論理的に表現させる指導を行う。

○条件を与えかかせる。

- ・学習用語、思考用語等のキーワードを使って思考を組み立てる。 【資料 】
- ・書き出し、書き終わりを指定して、論理的に書かせる。
- ・文の数、文字数を指定し、簡潔に書かせる。
- ・図、表、ベン図、数直線等の指導により、数学的に思考する力を付ける。

○場の設定をする

- ・自力解決の場、協働解決の場、まとめや振り返りの場のどこに書くことを位置づけることが、ねらいを効果的に達成できるか考える。その際、条件を与え、焦点化して書かせる指導を行う。

②協働的な学習を位置づける

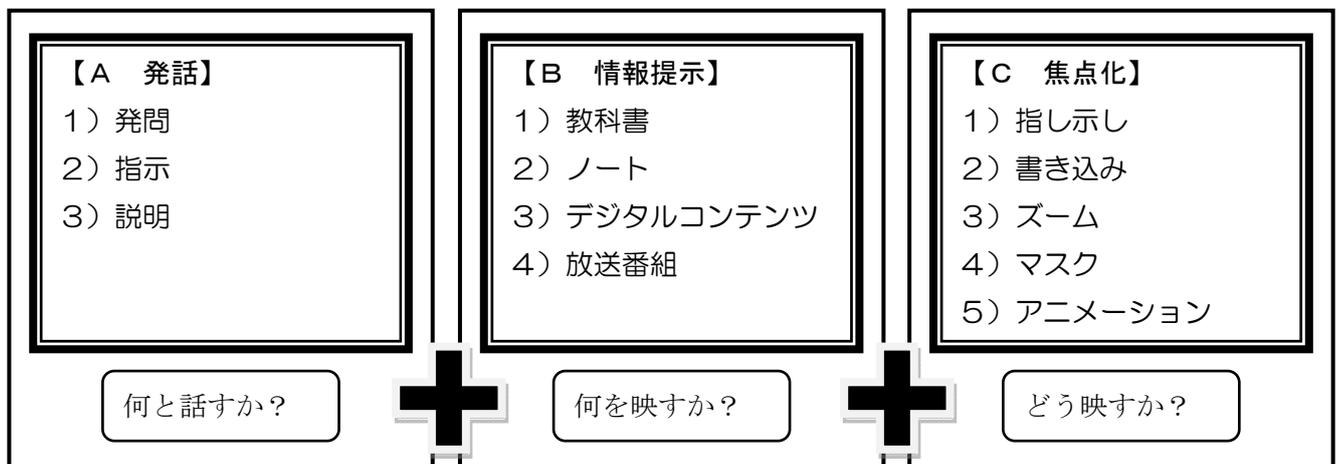
○グループ学習、ペア学習

教師主導の授業から、児童が主体的に学ぶ授業に転換するために、その仕掛けとして、学習指導過程に、グループ学習やペア学習を位置づけていく。そのためには、まず第一に、『話し合う価値のある課題』と、『話し合いのゴールを明確にした課題』を与えることが必要である。例えば、「ひしがたの面積を求める方法を見つける」ために、「全員が説明できるようにする」「簡単に求められる方法を1つに絞る」のような課題の絞り込みをすることである。その前段階として、グループ学習・ペア学習の話し合いの仕方の型を発達段階に合ったものを作成し、全校で取り組む。 【資料 】

③ICT活用

○電子黒板・デジタルテレビ・プロジェクタ活用による教授行動分類

【A 発話】 【B 情報提示】 【C 焦点化】



(東京学芸大学准教授 高橋純 2011)

○教科指導に生かすICT

1) 学習指導の準備と評価のための教員によるICT活用

- ・ 教育効果を上げるためのICT活用の計画
- ・ 授業で使う教材や資料などを収集するためのICT活用
- ・ 授業に必要なプリントや提示資料を作成するためのICT活用
- ・ 評価を充実させるためのICT活用

2) 授業での教員によるICT活用

- ・ 学習に対する児童の興味・関心を高めるためのICT活用
- ・ 児童一人一人に課題を明確につかませるためのICT活用
- ・ わかりやすく説明したり、児童生徒の思考や理解を深めたりするためのICT活用
- ・ 学習内容をまとめる際に児童の知識の定着を図るためのICT活用

3) 児童によるICT活用

- ・ 情報を収集したり選択したりするためのICT活用
- ・ 自分の考えを文章にまとめたり、調べたことを表や図にまとめたりするためのICT活用
- ・ わかりやすく発表したり表現したりするためのICT活用
- ・ 繰り返し学習や個別学習によって、知識の定着や技能の習熟を図るためのICT活用

○学習指導案へのICT活用の明記

ICT活用の目的と手段を明確化するため、学習指導案に以下の表を付記する。

授業の場所	<input type="checkbox"/> 普通教室 <input type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他()
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> 個別学習 <input type="checkbox"/> グループ学習
ICT活用場面	<input type="checkbox"/> 導入 <input type="checkbox"/> 展開 <input type="checkbox"/> まとめ
ICT活用者	<input type="checkbox"/> 指導者 <input type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他()
ICT活用の目的 (指導者)	<input type="checkbox"/> 学習に対する児童の興味・関心を高めるため <input type="checkbox"/> 児童一人一人に課題を明確につかませるため <input type="checkbox"/> わかりやすく説明したり、児童生徒の思考や理解を深めたりするため <input type="checkbox"/> 学習内容をまとめる際に児童の知識の定着を図るため
ICT活用の目的 (児童)	<input type="checkbox"/> 情報を収集したり選択したりするため <input type="checkbox"/> 自分の考えを文章にまとめたり、調べたことを表や図にまとめたりするため <input type="checkbox"/> わかりやすく発表したり表現したりするため <input type="checkbox"/> 繰り返し学習や個別学習によって、知識の定着や技能の習熟を図るため
活用機器	<input type="checkbox"/> 電子黒板 <input type="checkbox"/> デジタルテレビ <input type="checkbox"/> プロジェクタ <input type="checkbox"/> 教材提示装置 <input type="checkbox"/> PC <input type="checkbox"/> タブレットPC
活用場面の【発話】	<input type="checkbox"/> 発問 <input type="checkbox"/> 指示 <input type="checkbox"/> 説明 <input type="checkbox"/> その他()
活用場面の【情報提示】	<input type="checkbox"/> 教科書 <input type="checkbox"/> ノート <input type="checkbox"/> デジタルコンテンツ <input type="checkbox"/> 放送番組 <input type="checkbox"/> その他()
活用場面の【焦点化】	<input type="checkbox"/> 指し示し <input type="checkbox"/> 書き込み <input type="checkbox"/> ズーム <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> アニメーション <input type="checkbox"/> その他()
ICT活用のポイント	(授業者からICT活用のポイントを説明)